

法坊
783
二九
一七
一〇九
函號類
和書門

庫	文	閣	內
七四函	二九	一七	和
二〇架	四	九	書
	冊	號	類

內閣文庫	
番號	和 29179
冊數	4 (3)
函號	174 237

内一〇九五六號

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

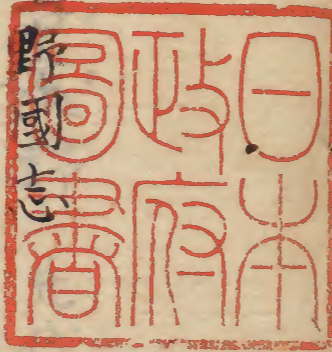
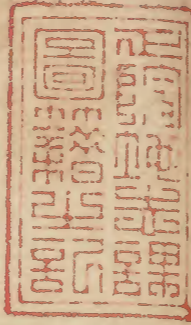
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale

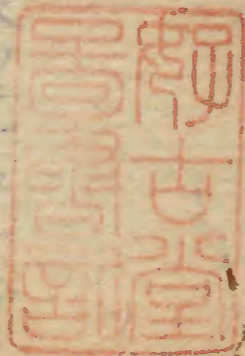
G Y M

© Kodak, 2007 TM: Kodak





内一〇九五六號



利根郡

和名抄云 渭田双末男信奈万 笠科加佐

吳桃奈久 留美

當郡都テ沼田ト稱ス蓋ニ沼田氏ノ領スルニ

依テ十儿三在昔ハ渭田ト書テ何ノ比ヨリカ沼

田ニ書テヤ東鑑ニ沼田トアリ吳桃ハ今



村名三猶存

村落玖拾伍村租入二萬捌仟二百十三石九斗

參升捌合

沼田所 沼田氏不詳其所出興始封之代東鑑建久

四年賴朝皇野ノ狩ノ供奉及文治六年上洛ノ供奉

沼田太郎十

別説下ノ城
墨ノ条下ノ記

株名村

戸鹿野 先代舊事本紀曰推古天皇十五年八月

大仁鳥臣往東國開田至上野治利根海見海

狀乃割戸河瀧磐高二丈厚一百步暴蛟

忿荒棋水漲流爰鳥臣廻妙工敢不損七一

人遂治水為陸得良田一萬七千八百八人言

神工不勝人巧毒蛟尚逗深淵知鳥臣出議

田欲食鳥臣忽有神人切殺毒蛟開三國

路直入雁越
此神人、諏訪ノ神也、コレヨリ先鳥ノ臣ノ
諏訪ニ至ル時、神ノ告アリテ汝ヲ助ル
（キコトヲ宣リテ、故ニ沼田ノ内村毎ニ諏訪社ヲ祭ル又
按ニ本紀ニ戸河トアルハ今ノ戸鹿野之滝岩、今ノ戸鹿
野橋ナリ）

戸鹿新田

沼須村

下久屋村

上久屋村

平出村

尾合村

岩室村

生枚村

小松村

日向南江村

藪原村

樺平村

穴原村

大揚村

大原村

老神村

浴スル者ソノ邊ノ岩室ニ居ル岩室三四アリ

此村片岳川ノ傍ニ温泉涌出ス人家十三

高戸屋村

追貝村

筑地村

平川村

荳沼村

下平村

戸神村

御座入村

須賀川村

上屋村

幡谷村

摺淵村

上河場村

温泉アリ弘法大師ノ加持ノ湯ト云

花嘴村

此村觀音堂アリ堂ノ旁ニ往古石花壁ニト云岩アリ石花一

代醉編曰慈
利縣武口寒
石上有花如
堆心牡丹枝
葉縹緗之
精於畫者莫
能及或以物
投之破其花
拭之其花復
見

テ村ノ新田大倉蘭村ト云所美石ヲ出ス櫻石ト云

書質白理文羅穀ノ如_ニ国君ヨリ禁_リ安_ニ取_ル

フヲ得_ル

下河場村

中野村

萩室村 ハキムロ

古語父村 コゴフ

高卒村 タカヒ

横塚村

生井村 ナマ

秋塚村

奈良村

癸知村 ミナ

佐山村

石黒村

真庭村
政所村
師田村
宇楚井村
井戸野村
恩田村
硯田村

大釜村
善桂寺村
戸神村
町田村
下沼田村
堀邊村
白岩村

後閑村

下牧村

上牧村

大沼村

奈女ナメ澤カハ村

高カハ日ヒ向カハ村

小日向村

鹿野澤村

吉本村

向山カハ村

藤原村 此山ノ奥ヨリ利根川出

湯ノ小屋ト云

比奥ニ温泉ニ座アリ
六座川ト云ハ

粟澤村

網子村

幸知村

湯檜曾村 温泉出

大西村

谷川村 温泉出焉

阿能川村

河上村

小仁田村

寺間村

石倉村

月夜野村

相役村

東小川村ニ
須賀川ノ神ノ
間ニ入リ

東小川村 温泉アリ

是東小川村ヨリ沼峠ヲ越テ會津ノ檜
枝役ノ行ク峠ニ三里沼アリ

小川村

新卷村

羽場村

名胡桃村

上河田村

金井村

下河田村

屋形原村

岩本村

神社

保鷹社

保鷹山リ祠ハモト利根川薄根川

落際アリリ沼田上野々景時社地ヲ城トシテ社

ヲ轉移ス祭日本武尊保鷹山ト花咲村奥ノ

鈴山獄ヲ云會津界蟠窟ス高山之參詣ス者

絶テ十三邂逅登ルモノモ三年ヲ不出ニテ死ス云傳フ

曰磨嶽葛嶽燧山嶽清心嶽栗原中嶽奥嶽皆嶽利根湯花

嶽茶磨嶽ニ皆武尊山ノ名所ト云

河内社

村ニアリ城北ノ三峯ト云山

追母峯
吹返峯

後雨峯コレヲ三峯云祭神不詳或云三輪社ノ祀文曰高智ノ御也或云河内
躬恒ヲ祀ル

兒持神社 屋形原村ノ笹尾ト云所ニアリ 兒持山ハ

群馬郡ニ属ス

八捕脛社 後田村ニアリ

土人相傳上古長人アリ人民テ却掠又
此地懸崖アリソノ半腹岩アリ此人

藤ヲ以テ山上ヨリ縋ニ山中隠レ住ニ夜ハ出テ劫奪又百姓コト愁フ冬ニテ
後ノ穴屋宅ヲ審察ニテ藤縋ヲ断ツ長人去リテ不能ツ井ニ穴屋中ニ

斃ル具脛ハ捕アリ後人奇トモコトヲ祀ルト云リ

按日本紀越後風土記ヲ引テ曰美麻紀天皇御世越国有人名八捕脛其
脛長ハ捕々カ大強是云雲之後也其属類多越後風土記今檢テ得

ス引所ノ未ノ諸捕ノ行業ヲ記スニ沼田越後ト相接ス蓋ニ此人ナルニ此
社玉泉寺堂香火寺記アリ其辞云世傳曰天喜康平之間源頼義我於奥州

安部貞任高宗任挑戰云云貞任或云惟任是居上野州尾瀬谷窟矣欲誅之其路危
峻而其越国半也康平四年辛丑武將頼朝巨賊ヲ討於利根郡勸請八階

大菩薩推轂頼朝軍神甚見奇瑞而後陷尾瀬州也安部餘黨在八階山
岩窟而餓死矣俗稱八東頼美公或曰武威兼信心合神德所以也今利根

郡有守部姓尼頼堂高也長享二戌甲歲仲秋十五玉泉寺見異惠意
書又見文七年直田伊賀也信直建三社コト云驗アルニ依テ此改明神

社權現云リ記文ノ所謂守部殘黨ト云毎ノ三天即去天傳山漏網
ニテ藤原入瀧區又五野分景般ノ時三太郎委負トテ始ニ出仕ト云ル
其高猶在藤原村又惠母ノ名所ト云惠母城火打見越猫川寺云峯

沼田橋野子嶽四山管川笠木嶽高日向嶽

十

寺院

第三世大朝号
船名最重英史
一列之号
大朝ノ号ヲ透
津去後ト云

泉寺 後閑村ニアリ曹洞宗人閑山一列正伊

和尚 白井双林寺閑山月江ノ嗣 初長尾景仲入道尚

賢寛正二年一列ヲ請テ歸念ノ九曜井ノ邊方庵

ヲ立テ玉泉庵ト号シ居テ其後一列信田長

忠ニ据カレテアノ寺ヲ建ツニ又玉泉寺ト云フ蓋シ尚賢

カ志ヲ忘レムト云

齋田伍十石

迦葉山龍華院彌勒寺

癸知村ニアリ

開闢初祖圓仁慈覺大師

貞觀六年甲申正月十日

檀越一品茗原親王

兼知五年戊午正月任上野大
守文徳天皇仁壽三年癸酉

六月四日薨壽六十八當寺ニテ龍華院殿清夏入道ト称

ニ奉ル

二祖慈運律師

庚正二年九月十八日入定

三祖曹洞宗合ノ同師天巽應順禪師

人皇百
四代後

土御院明應七年戊午三月四日示寂コレヨリ曹洞宗ト

ナリ

境地

雞足山

迦葉尊者入定ノ窟ニ

在リ

免前栽

案山 中峯

小茅葉

聖胎岩塔

胎内クリト云

彌勒

弘法ノ爪アリ

弥勒ト云

坐禪

石子馱川 馬見隱、故

吉祥寺 河場村ヨリ臨濟宗開山大拙祖
能永和三三年九月十三日 示寂謚明鑑

常樂院 沼田ノ柳町アリ真言宗古義ノ
未寺 室御

城壘

沼田城

關東古戦録ニ云

別ニ沼田ノ土人ノ記アリ今
参考ノ為ニ細書ス然レ土人

ノ辭太概誤リ多シ
故ニ古戦録ニ正ス 壽永年中緒方三郎大神推栄源

家ニ属シテ切アリ豊後国佐伯庄ヲ領セシカ共

後義經ニ与カスル 聞ハリテ建久七年所帯

ヲ没收セラシ波多野四郎大夫能成ニ預ル上州

利根郡ニ流サル年ヲ 經テ配所ニテ三郎惟恭

ト云テ設ケタリ其後惟采赦ニ遭テ本國版リ

惟恭ハ止リテ戸上ニ住ニテ沼田ト称シテ子孫相

續セリ 采沼田氏惟恭ニ始ニルニ非スヨリ先キ建久四年ニ

近将監能直ト申スハ右大将頼朝公ノ御息ナリ其イハ

シテ尋ルハ上野ノ国平氏ノ利根ノ息女ヲ頼朝寵愛ス

ニ賜テ後從生ナリシ御曹司ヲ市法師致ト申サシ

シハ此人ナリト云云又能直ノ子ヲ利根ニ即親秀ト云友ノ

二代ノナリ此ニ依テ考ルハ利根氏或ハ沼田ト称ヌラニ猶扶父

氏又畠山ト云カ如キカ土人ノ記ニ云沼田ノ城ノ根本ハ醍醐

帝ノ御宇桓武天皇ノ皇子大友親王ノ裔沼田勘解

左衛門尉景安始テ利根郡

庄田ニ城ヲ築居ル即今ノ戸神村ニ其後後深草院御

宇惟恭カ裔沼田勘解由左衛門正恭館ヲ町

田ト云所ニ建テ笛吹城ト号ス鎌倉將軍

家ニ仕テ土人ノ記ニ云景安ヨリ五代庄田ニ居住其後花

今ノ弦城院其曰跡ナリ正恭カ裔上野ノ景忠入

道了雲齋保鷹鳥社ノ地ヲ轉シテ倉内城ヲ

築ク土人ノ記ニ云景安ヨリ十代ノ孫三郎(雲齋)武

道ノ達人ナリ此院同郡片品ノ御志賀磨ノ

原幕岩ニ城ヲ構ヘテ沼田城ト名付ク今ノ常樂院ニ
其ノ趾ナリ其比ハ常樂院ハ下河場ニ亦前願
所ナリソノ後保安元年七月奥州越州ヨリ敵ヲ請
ケ合戦ニ及フニ城中水乏ニテ難儀ニ及フ時雲齋計
畧ヲ以テ白米ヲ桶ニ入柄杓ヲ以テ馬ニ汲掛テ馬ヲ洗
フ射ヲナメ敵コレヲ見テ用水不足ナリト思ヒテ引退テ
城中運ヲ用テヨリニキノ城ト名付ク又同保安年中
信州ヨリ攻ラル事アリ此時城方打負テ籠城ナリ
難カリニ同郡後深ノ正八幡稻荷ノ社ニ祈願マシニ
夜中社頭ノ方ヨリ數万ノ燈ヲ然シ大勢發向ノ行
装アリニヨリ敵自ラ卷ホクニテ退散スヨツテニ社ヲ
梅ノ口ニ勸請ス梅ノ口ト云ハ今ノ戸鹿野ナリ時
齋ノ長子ノ時ニ至リテ時雲齋ノ為ニ智德ニ光
院ヲ建ツ保延年中ニ庄田ヲ八家老和田氏ニ与テ

居ラシム景安日十二代上野外景時後ニ紀伊守ト号ス
此取仁平三年幕岩城ヨリ西南利根薄根西川ノ
落合ニ要害ノ地ヲ見テ城ヲ築ク此地ハモト武尊大
明神ノ社アリニテ社ヲ移シテ浪士宮延民部ヲニテ宮
社ヲ修理セシム上野外五代孫權太左衛門四子
アリ長子沼田藤藏二男川田右馬助元弘年中相摸
入道高政ニ從ヒテ大和国宇田郡ニ戦死ス三男沼田次
郎景清足利尊氏ニ仕テ伯耆国ニ討死ス四男沼田四
郎家ヲ統
傳ニテ其子勘解由左衛門頭義
ニ至ル天文ノ比頭義家ヲ嫡子三郎種義ニ譲リ
其身ハ入道ニテ萬鬼夜討ト稱シ二男平八郎景

義ト俱ニ下河場ノ別業ニ隱居セリ 土人ノ記云
權太左イ

門景偕八代ノ孫伴喜齋カ晩ニ至リテ當國戰爭
地ナルヨリテ吾妻郡ニ七ヶ所ノ砦ヲ構フ

萬鬼齋後ノ小子ノ愛ニ迷フテ長子三郎ヲ嫉

不意ニ倉内ノ城ヲ籠テ種恭ヲ殺シ景義ヲ

立テ、家督トシ 土人ノ記云平八郎カ母ハ同郡東入り

三郎年始ニ礼河場一行ニトキ継母ナリトシ、讒言ニ三郎カ

飯路ヲ要シテコレヲ討取リテ平八ヲメ家ヲ継シ云
種恭リ妻ハ向井ノ長尾景春入道伊玄カ女ニテ

長野左イ門大夫業正カ妻ト兄弟ナル故 長尾家
譜ヲ案ス

ル伊玄カ妹沼田刑部大輔憲義カ妻ナリ伊玄カ長子景
英カ女業正カ妻ニ伊玄トハ晩代カニ遠アリ

白井箕輪軍兵ヲ合セテ沼田テ伐ツ萬鬼齋戰

ト負テ深山ヲ越テ奥州檜枝股ニ遁シ草名盛

氏ニ屬テ居シリ此時上州ハ上杉憲政ノ分國ナル

故ニ倉内ヲハ其臣猪俣左近大走則頼ニ与フ則

頼忠アリテ上杉ノ家風ノ頗廢ラ歎テ歎々

諫憲政コテ怒リテ遂ニ則頼ヲ毒殺シ倉内ハ
 直ニ則頼カ子能登守則直ニ与フ上杉氏ノ哀ル
 ニ及テ則直北條氏ニ降リテ南方ニ属當取
諸田小田原ヲ永禄一年上杉謙信既ニ上杉憲政
指テ南方ニ云ノ管領職ヲ受ケ統キ近衛殿下ヲ奉ニテ関
 東ニ越山ニ同十月自倉内ヲ改ム猪役和ヲ
 乞テ南方ニ走ル即チ用土新左ノ邦房

命ニテ 城主タラシム

邦房モト管領ノ舊臣故父
岩田ノ天神山城主藤田右衛

門ト号ス上杉ノ没落ニ及ニテ南方ニ降リ氏ハ康ノ
三男新太郎氏邦ヲ養テ子トシ天神山ヲ讓リ兵ハ
其身ハ實子虎壽托ト共ニ用土ニ隠居ニテ用土親左
衛門ト称ス謙信ノ越山ニ及ニテ謙信ニ飯ヌ虎壽
後能登守其子藤田能登守信吉ニ至リテ
信吉ト称ス

城主タリ 天正六年四月沼田景義萬鬼ハ
既ニ死ニ

テ景義杖
檜枝股ヲ守ル其臣金子義濃ト急ニ倉内ヲ襲

フ信吉ヨリ防戦ニ景義及金子ヲ討取ル

天正七年七月武田勝頼東上州ヲ却畧シテ
沼田ヲ攻ム藤田及加勢河田伯耆守城ヲ開
テ越後ニ退ク勝頼信州ノ先鋒西條治部
右衛ノ城代トス勝頼ノ滅亡ニ及ニテ森下
三河守城ヲ抱テ居シリ同十年滝川一益上
洛ノ後氏政命氏邦氏房ヲシテ攻ム森下カ
戦ニテ討死ス氏政再々猪伎能登守ヲ城

代トス真田守房守昌幸元ハ甲州ノ臣ニシ
カ郷ニ信長ノ旗下トシテ氏政ニ降リシカ
是年ノ秋氏政ト

大神君ニ鉾首ニ及ニテ 神君ニ皈降ニテ吾妻
郡ニ打越一同年十月ヨリ翌年ノ九月ニテ
吾妻利根ノ二郡ヲ悉ク切從フ氏直
神君ト講和スルニ及ニテ氏直使ヲ遣ニテ利

根吾妻二郡ヲ求メ一圖ニ上州ヲ領シタキフヲ
神君ニ請フ 神君乃昌幸ニ命シ玉フ二郡
ヲ小田原ニ飯ニ与一代地ハ姑ク待一キ由ヲ仰
ラルニ昌幸嘗テ肯ハテ却テ憤リテ會ニ
使ラ大坂ニ遣シテ秀吉公ノ幕下トシ 又
即テ景勝ニ乞テ濱松ニ對シテ不臣ノ色ヲ
顯スコシ依リテ 神君止テテ不得シテ

昌幸カ居城信州上田ヲ攻メ氏直ハ氏邦氏房
ヲシテ沼田ヲ擊シム 天正十二年八月ナリ昌
幸ハ上田ニアリテ沼田ハ家人須野原伊賀城
代タリシカ城固クシテ拔クテ不克シテ飯川同十
七年氏直猶上州ヲ一圖ニ領シタキ昔テ秀吉
公ニ祈フ公許容アリテ真田 下知ニ玉フ昌幸
領掌ニテ申ケルハ唯同郡名吳桃ノ壘ノミ

父祖墳墓ノ在ル処十六是ノミノクシ度願ノ
己依リテ此趣ヲ氏直ニ下知シテ即ニ郡ヲ
氏直ニ渡サル是年十月氏直沼田ヲ安房守
氏邦ニ兼帶セシ復猪伎能登守ヲ以城代
トス猪伎天性輕躁ノ勇ニテ名吳桃ノ保障ノミ
小田原ニ隸セサルヲ憎ミテ潛ニ龍衣ヲテ之ヲ奪フ
於是大閤甚又赫怒ニシテ終ニ小田原ノ大

役及フ職トシテ此由ル已上古戰
録ヨル 天正十八年

關東御入国ノ時真田伊豆守信幸ニ賜フ
土人ノ祀ニ云安房守ヨリ沼田ノ城代ニ海野能登守同
長門守兄弟ヲ差置テ安房守ハ信州上田ニアリシ時
海野兄弟潛殺ノ聞アリシカハ討手ヲ向ケ能登守
ヲハ吾妻三原ノ住メ神原石見打取ル長門守ノ迎葉
山ヲ越テ佐山ヨリ吾妻ノ岩井川ト云所ニ忍居リシヲ
吾妻ノ任人鹿野和泉打テ出シケリ沼田ノ城代トシテ
矢澤薩摩ヲ入置ケリト云云慶長六年信田城修
復子ノ時侍屋敷所割等出來ル慶長三年
神君會津御往伐ノ時安房守伊豆守父子供奉
ス野州守都宮ニテ進登ル処石田三成逆意ヲ聞キ

安房守八年辨カヲ引具ニ途中ヨリ引返ニ吾妻山中ヲ經テ
大戸岩ニ火ヲ掛ケ其ヲ明リニテ鳥居峠ヲ越テ信
州上田ノ城ニ入り 秀忠公ノ御進發ヲ支ヘ奉ル上田ヲ
ハ伊豆守踏躑ヘキ田ヲ命シ玉ノ関原御勝利ノ後
沼田ハ伊豆守嫡子河内守信吉賜リ伊豆守ハ信列川
中島十石御加増ニテ松代ニ在城ノ家督ハ二男大内
記信政相續ナリ寛永十五年十一月廿一日河内守信吉
江府ニ於テ卒セラレ行年四十三歳信吉ノ嫡子能之助家督
相續ノ処同十九年十二月廿九日卒ス依此ニ男兵吉
沼田ニ在リニテ叔父大内記信政後見トシテ沼田ニ在城ス
明曆三年ニテ十九年ノ間兵吉ニ國領小川ニテ五千
石知行ニテ部屋任ナリ 明曆三年兵吉受領ニテ伊豆
守信利ト称ス口万治二年十月十七日伊豆守信幸卒ス
行年九十三歳大峯院殿徽巖一當大居士ト云松代ニ

送葬ス万治二年ヨリ寛文七年ニテ城ノ修復口天和元
年辛酉江戸兩國橋御用材木沼田領ヨリ出スキ
旨蒙 仰ノ処材木江戸着公岸ノ延引付同年十月
廿二日河内守知行召上ラテ字都宮城主貞平大膳大夫ノ御
預々嫡子彈平忠ハ播州赤穂ノ城主淺野内近頭ノ御
預次男哉藤源三郎ハ美濃ノ遠藤外記三男栗津
外記ハ信州上田城主石越前守ノ御預ナリ此改
沼田ノ城請取上使ハ高崎ノ城主安藤對馬守重信
信州飯田城主堀田防守親貞奥列岩城城主
内藤右近大夫政親城請取リテ尤昔ハ細川豊前
守興隆新庄主殿直詮ナリ 天和二年 焼城
土人ノ記云同三年正月三日ヨリ城破却天守櫓門
石壁亦不殘崩シ武器馬具ハ板倉市ニ御

類ケナリ城跡平地コノ反別四拾七町七反三畝七
歩所人ニ下サレ凡此城仁平三年沼田上野々草創ヨ
リ是歳一テ凡五百三十
年及ケルト已上土人ノ記

真田氏ハ滋野姓ナリ清和天皇第三皇子刑部卿
貞元親王ノ御子參議兼忠ノ子海野小太郎幸恒信
州小縣郡ノ海野ニ住ス幸恒ニ子アリ長ハ海野小太郎
幸明次ハ根津小次郎直家第三皇子ノ御子幸勝ト云
幸明ノ子信濃守幸真ト云リ幸盛幸家幸勝幸
親幸廣ツ、井テ上田ニ住ス幸廣ハ本曾義仲ノ屬ス幸
廣ツ子右衛門尉幸氏ハ頼朝ニ仕ラ幸氏ヨリ十九代信
濃入道棟綱
三子アリ嫡子左京大夫幸義次
男彈正忠幸隆入道一徳斎信ヲリ真田氏ヲ賜ル
三ノ安房守昌幸ト云リ又一説一徳斎ノ長子源太左衛門

信綱ニ勇兵部丞昌輝并ニ長篠ニ戦死 天和二年ヨ
第三ノ安房守昌幸ナリ

リ 元禄十六年ニテ 御領所 元禄十一年沼田領ノ
内ハ千石内者式尸

女輔一渡リ下沼田村ニ陣屋ヲ建テ 同年二月本多
家老尾白藤右々川 居住ス

伯耆守正永四萬石 本二萬石 一信加増 沼田ヲ拜領吾

城ヲ築ク 同遠江守正武 同豊前守正矩

享保十五年駿洲益津郡田中(所替沼田城前

橋城主酒井雅樂頭御預リ 翌年九月ニテ在

城ヨリ越後村上城主堀左京亮直治御預ト
ル領分ハ御代官所トナル同十七年黒田豊前
守直邦常列下館ヨリ一萬石御加増三萬石
テ沼田拜領 享保三十年三月廿六日 嫡子大和守
直純家督寛保二年上總国久留利古城跡ヲ
拜領所替同年ヨリ土岐丹後守頼稔同伊豫
守頼熙同美濃守定經

小川保障勝頼東上州出馬ノキ攻取ル沼田ノ子城ニ

名呉桃 上ニ見 真田彈正幸隆在信州真田村上義清ヲ為
追テ此所ニ適居テ信玄招キ居テ幸隆一徳

齋ヲ事ス

藤原若 天文廿三年十月謙信深雪ヲ踏テ三國峠ニ越テ懐カ京ノ亂
ニ魁首新釜田尾張守長教ニ陣長尾衛門尉政勝跡將河田對

馬守親景惣軍二十會比昔麻原若龍衣之長田氏為
長敦授首此收活取小田系ノ持心

高

山川 此郡大山夕々シ

戸倉番所 會津越ル道ナリ

沼峠 駒カ嶽東アリ上野越後陸奥界之山上沼アリ尾頼沼ト云沼中
央國界之沼水西北流大滝川ト云アリ西越後東陸奥之但大滝

川越後ニテハ不動滝ト云
信州界鳥井峠ヨリ是ニテ三十三里十九町

駒カ嶽 白沢嶽ト云
駒子山東越後界ニアリ越後ニ

大江山 沼峠東ニル奥州界ニアリ赤安山ト云
サヤ山ノ南下野界アリ下野ニテモ同名

白根 小川村ノ奥ニテ日光山隣ル祠アリ荒山社ト
云參詣スル者深奈ト云登ルヲ得

七五

大烏帽子 小烏帽子ノ東ニテ越後ニテモ同名

小烏帽子 富士山東越後界ニテ越後ニテ吾妻山ト云

富士山 郡西北隅越後界ニテ北山越後ニテモ同名ナリ

利根川 或作子禰出自越後界富士山西諸溪

合為流南ニ流テ勢カク郡馬ノ間ヲ經前橋ノ西ニ

至テ折ケテ東南ニ流群馬郡ヲ過テ那波ニ至テ又

折ケテ東流ニ佐位新田邑樂ノ南畔ヲ經テ武總

ノ界ヲ過テ東海住ヲ委ク末ニ紀ス 凡山嶽ハ各郡ノ

必ス數郡ヲ歷テ故
卷末ニ集記

刀祢河泊乃可波世七思良受多ク和多里奈

美尔安布能須安敞流伎美可母

新 サハ分テ 神ヨリヤレマカ祢川ノ石ハ踏トモイサ川

源ヨリ 伊遠

家集

ト子川ノ底ハ濁リテ上澄テ

ナル物ヲサ子テ

悔シキ
実方

カ^{大木}称川ノ河原ヲ行ハ夜千鳥石フム道落クリ啼

公朝

文明十九年十月廿七日山雪ニ向ヒテ朝立侍リ

利根川ヲ遠ニ見侍リテ 堯惠紀行

降ツミ雪ノ光リヤサソイニ波ヨリ明ルアノト子川

片品川源ニツアリテ大江山ノ麓ヨリ出ツハ津婦

良ノ沼ヨリ出ツ沼ハ白根ノ峯二十五浅カ嶽ヲ

下ニアリ森下村ニ至テ利根川ニ注ク

太平記ニ源義貞義兵ヲ挙ラシメ
保シ利根川ヲ前ニ當テ、敵テ引清
シト云其
後應安元年三月武藏守義宗右衛門佐義沼
沼田ニ旗ヲ奉ケテ五フ
頼ノ領所ナルニ

スミカミ山

大赤山ノ東越後界アリ越後ニカクカ嶽ト云

駒子山

スミガカミ山ノ東越後界アリ越後ニテモ同名

北又山

大赤山ノ東南ニアリ奥州ニテ赤安山ト云

中ノ山

此又山ノ南ニアリ北又中又奥州下野ノ界ノ北中又下野ニテ赤安山ト云日光山中ニ

東ノ山

中又山ノ南下野界ニアリ下野ニテ衣カ沼山ト云

カヤ吊

東又山ノ南下野界ニアリ下野ニテ八咫山ト云

サセ山

カヤ吊山ノ南下野界ニアリ下野ニテ栗山ト云日光領栗山村ノ奥ニナリ

ナテロヤ山 白根山ノ南下野界ニアリ

ナテロヤ山 ナテロヤ山ノ南下野界ニアリ下野ニ定顯房山ト云

カク山 比山ノ南勢多郡ニニ出ヌ

上野國志

勢多郡 和名抄云深田 田邑良多無芳賀加波

桂萱 加也以真壁 万加深渠 布加無曾深澤 布加

時澤 藤澤 布知

コノ内澤澤ハ今ノ神梅病廻ナ云フ今モコレヲ深

沢ト云又赤城山ノ西南ニ真壁村アリ餘未考

村落百三十七村租入伍萬七千六百四十三

石一斗七升四合

神梅村 コノニ村ヲ深沢ト云

田澤村 水沼村

榆澤村 萩原村

花輪村 小中村

神戸村 草木村

澤入村 座間村

小夜戸村 此アタリヲ黒川山中ト云源義家ノ安

倍宗任ヲ虜ニシテ黒川山中ニ放流スト云ハ此所ナリ

後赦免ニシテ近侍ヲナサシメ遊獵ニ倍従ス其子孫

或ハ松島ト号ニ或ハ茂沢 或作 悪沢ト稱スコノ処ニ松島

ト云所モアリ 松島ニ鳥海權現ヲ祝ルト云

八木原村 塩澤村

コレニテハ赤城ノ東ヨリ北方ニテ沼田山中ニウキテ
山中ト呼フコレヨリ下ハ赤城ノ東南ヨリ南及
西南ノ方山ノ根通リナリ

新川村 野村

磯村 小林村

武井村

山神村 モトセカヒ 舊山上ニ作ル足利大夫成行カ孫家

綱カ子也即高綱始テ山上ト号シ子孫相讀テ

未ニ
記ス

東鑑曰足利又太郎忠綱潛上野國上野龍興
招即從桐生也即許教日塾居遂隨桐生之諫
經山陰道赴西海 其遺趾今無形考

釋書曰叙行仙從靜道法師學密教旁修念
佛三昧不必念號專凝想觀居上野之山上性

不在飾或人請唱導會新山中使腰鉏斧赴
檀家人貴其模素凡親物不取又不辭只隨
處恣人受用弘安元年秋受微恙端坐如入
定而化時雲掛庵前竹宛如曝紫衣又
竒樂異香充滿天外聞毗後得舍利其灰
色紫而香仙先年預書臨終月日潛置篋
底其徒滅後勸行李得其書相顧益戀遺德

ノノ舊跡今不詳

関村

奥澤村

板端村

室澤村

膳村

舊善作儿

中村

月田村

前皆戸村

田西村

深津村

女淵村

大前田村

馬場村

苗箇島村

鼻毛石村

市之関村

瀧窪村

一日市村

柏倉村

茂木村

大明ノ故城ノ村ニツキテ在

宮関村

堀越村

村ニ金良坂アリ相傳義經奥州ニ向ノ時休而喫飯也

川原濱村

泉澤村

大谷村^{オホカ}上下

此村ハカ峯ノ山巔ニ堡アリ周廻

千二百間中ニ鯉魚多シ

泉澤村

大室村

三宮村

飯上井村

新井村

増田村

筑井村^{ウツホ井}

筑ウツホト訓ス蓋偽造字ニ

大島村

小屋原村 前橋ヨリ伊

勢崎及五料ヲ驛ノ駒形村ノ半ヨリ西北村

ノ駒形ハ那波郡西善養寺ハ此村ト新田ナ

リ黒谷上人繪詞傳大明太郎念仏安心ノ小屋原蓮
性ヲ使ミテ法然上人問奉リシト此里ノ人ナリシ

小島田村 女屋村

今井村 荒口村

富田村 江木村

中亀村 萩原村

小泉村 堀下村

石関村 上野村

長磯村 野中村

片貝村 上泉村

五代村 端氣村

沖之郷 三ツ役村

清王寺村

才川村

萩村

岩神村 此村有岩在此利根川旁魁石累積
高三大餘廣三四十步紫赤色水到其下則危
怖不可道累石縫間生諸水及藤蘿相傳
相傳古洪水漫天片石山之此傍解流止于
此地石工欲摧之充造屋之用石中有聲
如人号膿血流走石工四支麻木兩眼眩

暗而倒死故土人相尊而稱神矣

下小出村

上小出村

北代田村

下細井村

龍藏寺村

幸塚村

青柳村

荒牧村

川端村

日輪寺村

上細井村 此村南半里許鎌倉坂アリ

小神明村

小坂子村

勝澤村

嶺村

小暮村

不動堂村

原之郷

此村ニ須久毛山アリ

田島村

石井村

引田村

凍窪村

横室村 村北有十二山一魁石為山多松樹山上

有十二天社故名焉

コレヨリ下赤城ノ西南
山下ナリ

田口村 村北有橋山上多桃及松其北有城山巔

平如人可處橋山南有片石山 家多奇峯阜
古句

立松樹叢生南則斜尊麓藏于林中北則累

石危峙數十尋相傳在昔此山過洪水北旁破

裂衣流止此根川旁也故名此山曰片石

米野村

箱田村 此村中江戸村アリ 村名赤羽坂アリ

真壁村

八崎村

南室村

三原田村

持柏木村

溝呂木村

見立村

勝保澤村

樽村

宮田村

猫村

小河田村

長井小河田ト云又南雲村ト云前橋

北五里南雲山アリ 数峯相連山巔廣原縦

横二里餘鶉雲雀覆盆夏枯草等多クアリ

百々原ト云村ハソノ北溪ノ中ヨリ洞水其前ニ

流ル其山路ヲ松木坂ト云險危ノ地之又輕濱

坂長井坂村南ナリ坂上古城アリ壘墨犹存

棚下村 山傍有洞廣二十步餘飛泉下於洞

前洞中見之如密雪頻下洞邊松枝凌天與

危石相接焉洞中有不動堂其徑從山腰環

登宛如螺子

森下村

椽久保村

糸井村

根利村 赤城山ノ北深山ノ中ニアリ 出川ノ名

暗裏會 クシモノツクシ 山最大 戸厓山 大倉沢ノ 銀山 未久田

北ア數峯 座向山 柘原ナリ此ノ山巔 三箇會

戸厓山ノ西 根利西鬼 天水奈之山 村ノ西 小袈裟丸山 根利

安加津良山 村ノ東群峯 礪砥山 座向沢南谷中ニ

高堀澤 戸厓山ノ東ナリ沢源末久由坂ノ溪中ナリ 鷹雛アル土人多捕

之ヲ瀧倉澤

高堀沢ノ東南ニアリ出東山中ニ座

澤 在砥石以北隔山沢水皆西流

注片品川以上根利諸山 凡根利山出嶽

熊膽

川額村

津久田村

貝之瀬村

生越村

多那村

輪組村

青木村

砂川村

日影南江村

下水良村

赤城山 數峯群聚總稱赤城 峯巒之名 一記之

黒檜山 赤城最高峯也神祠アリ

此ヲ千眼ト云子々手眼ナリ別當ハ

萩原ノ 寺ナリ天台宗ナリ

荒山 在地藏嶽南祭淺間大菩薩又号小

路嶽 三夜沢祝氏奈良原氏家有小田原北條制札 其辞云駿河富士淺間大菩薩赤城山之内号

小路之嶽地江御飛之由數ヶ度御神託無疑 之段三夜沢之社人一同徑進尤可奉任神慮事

對參詣之道者山内路次中喧嘩口一論非分横 合之儀聊不可有之事 於所中押買狼藉并

因質等儀一切可停止事右此条々有違背之輩 者不嫌甲乙人可慮其料者也仍如件永禄十 二年閏五月廿三日朱印コレ依テ

此地藏嶽 在大沼南山上有小堂守置銅像地 藏長二尺餘以銅釜為座 銅割山 在荒

南 篤嶽 在大沼 佐佐倉山 在篤嶽南北藏嶽 西北

前山 在小沼 和久土也山 在大沼 雁鳥山 在篤嶽 東地藏

嶽西北多磐石躑躅 永倉山 在大沼西和久土 生石間山上平也 也山南

烏帽子石 在荒山東北 瀑布之上

大沼

在黑檜西地藏北永倉南諸峯之中約計東西
十有余町南北六町沼中有洲名小鳥島東岸曰
障子返神殿在 各石垣沼一記石垣沼榛名
東岸記十下 沼也未詳

奥山ノ石垣沼ノ水コモリ

奥山ノ石垣沼ノ水コモリ 憲ヤワラシ逢ヨシ十三
御法集

新統古今

奥山ノ石垣沼ノ浮尊深キ 恋路ニ何乱ルニシ 俊成

御法集

叔王猶石垣沼ノ菖蒲草アヤメモ 知ラス神ノ玉水

夫木

菖蒲草石垣沼ノ根ヲタス今日ハ袂ノ白トソナル 同

夫木

カケロフノ石垣沼ノカケ六伏テシヌトモ 流ハ出シ 貫之

カウトタニ岩垣沼ノモヲツカシ 知人ナシニ 朽ル袖 式ア内親王

所セキ石垣沼ニヤトリテモ同シ 空花秋ノ夜ノ月 道尹

西澤集 真相鏡 雜見ニ或ニ石垣沼ノ乃隱而在 燿人應 又玉蟬石垣周之隱度 伏
以死汝名不謂 又青山之石垣沼同乃水隱下 恋哉度相縁
此歌拾遺集ニ青山ヲ奥山ニ作リテテ人希呂ノ歌ト云

小沼

在大沼東南隔小 祖母坂 在地藏嶽 地獄

谷峯

在永倉 舟之鼻 在地獄谷 五偏峠 在黑

鳥

峠在黑檜 南雲澤 在大瀑布 在小

南直下十餘丈南
流為糟川
橫枕藤井谷 并瀑布之上
ノ谷ナリ

不動堂 在瀑布南糟河之旁安詞像不動此像
甚神靈入稱角力則小見亦得奉之ヲ

若又欲量其輕重則雖有力者不能奉之

別當圓根龍真寺真言新義宗ナリ

温泉 三夜澤北不動堂西アリ苗ヶ島林屬ス湯ハ石間
ヨリ涌ル其氣味微ク硫黄ノ氣アリ甚シセ人コレ

ヲ煖ニテ浴ニ供フ治心氣打撲四支拘牽等甚效アリ

右昔ハ三夜沢ノ祝氏ニ屬シ神至奈良原氏ニ故託アリ

乱世ノ時逸亡者多ク浴泉ニ託シテ冥ニ速ニ返出
之キ旨神主一ノ書状アリ温泉ノ南ヲ太子匠ト云

横野 赤城山ノ南及西ノ下野ヲ云廣原十餘

里アリ紫ノ根生横野ト詠ハ此所ニ 紫草自生スハ
根横ニ生ス

五葉集

紫ノ根ハフ横野ノ春ノ野ニ君ヲラケツ、鶯ノ啼

新續古今集

紫ノ根ハフ横野ツホ草真袖ニ摘ニ色モムツニ 俊成

家集

紫ノ根ハフ横野ニ照ル月ハ其色ナラヌ影モムツニ 清輔

紫ノ根生横野ノ一ツ色ニ秋ノ真萩ノ花モ咲ケリ 為明

山家集

萱暖横野ノ茅花生スニ思ヒ思ヒニ人通フ

十四

東鑑曰建長三年四月十九日上野國赤木嶽燒

為先例兵革此之由今在廳等申之由云云

山中ノ人ノ昔時燒ニ今荒山ナリ温泉ハ其餘波ナリ

赤木集

萬代ニ赤木ノ山ノ白海石榴君カカ力行卯杖ヲ伐ル

ニロツハキ

十五

桃木トウキ搥ツキ

真壁村ニリ利根川ヲ分テ田水ト細

沢ト名ク

園根荒牧川端日輪寺北代田龍藏寺青

野中長磯

柳下細井幸塚沖之郷上泉片貝三後
井小屋原増田等諸村以此水澱田

元齊堰

園根村ニリ引利根水加廣瀬川以

為田水

神社

式内神社一座

赤城神社

赤城山南麓三夜澤ニリ

續日本紀永祿六年六月甲申奉授七野國无位赤城神從五位下
三代實錄貞觀九年六月廿日丁亥授上野

國從五位上赤城神正五位下同土年十二月

廿五日戊申授上野國正五位下赤城神正五位

上十六年三月十四日癸酉授正五位上赤城神

從四位下元慶四年五月廿五日戊寅授上野

目從四位下赤城沼神從四位上 山沼アリ故ニ或ハク、赤

城神ト稱シ或ハ沼ノ神ト稱ス別ニ山上大塔ヲカス、昨ス山上ノ宮ハ三夜次ト同社ニテ世々云奥ノ院ト云モノナラン

先代舊事本紀曰赤城神社金橋宮天皇 用明天皇

時盤筒大神出現鎮座

祭神ニ異説アリ或云大倉貴太神ト今吉田家ニ用此説又諸社根源記ニ云赤城大明神^{上野}覺滿大菩薩事人皇弟代允恭天皇御宇此畝山西坂本二人僧兄云近江豎者覺円弟云美濃弦印覺滿今ハ覺滿

大菩薩号赤城禪定給總ノ赤城山三所明神事大沼ハ赤城御前今赤城明神御本地ト學觀音也小沼ハ御父高野邊大將殿今小沼明神御本地虛空藏菩薩也山頂美濃法印覺滿也今赤城山頂覺滿大菩薩トテ御本地地藏菩薩也此歌ヲ誦ノハ我必其所ニ影向万事所願満足アラシキハヤフル神風夕エシ山ノレハモリワ霞ハ玉トナリケリ已上後人此説ヲ誇張ニテ赤城縁起ヲ志作シテ祭高野邊大將家成ト云根源記説甚無誓孟浪ナリ允恭帝ノ時仏法未渡叡山未開宣ニ僧者アラシヤ僅其眼ノ者其杜撰ヲ知ル然レモ神徳ヲ稱レ奉リテ覺滿大菩薩ト申スハ榛石ノ神徳ヲ滿行ノ大権現ト云カ如シ根源記トテ然リ縁起ノ説不辨シテ知ルヘレ

吉田伍付石 神主奈良原氏祖宮十六

三夜沢ノ社ニ社アリ東ノ宮己木宮ナリ奈良原氏カ
祀ル所ナリ西ノ宮己別殿ナリ増田氏神主ナリ相官
五人アリ梅スルコト昔祝氏申フ又アリテ分テ別ニ社
ト立テ事ルモノナリ

寶品 龍角 大般若經 写本ニ善ノ音源寺ヨ
リ納ム永祿ノ此ナリ

長刀 牧野忠國ノ納ルモノナリ

夫木集
上野ヤスタノ赤城ノ韓社ヤフトニイカラ 跡ヲ垂レケニ
梅ニラク者マタ也音通ス梅韓社赤城ノ社号欽韓國ノ神ノ
祭ルハ非レ此歌外所見ナシ

赤城神社 山上ノ社ナリ大沼ノ東涯ニアリ

社ヲ大堂ト云別當ハ代田山法門院壽延寺

前橋代田村 前代田ト云群馬郡ニ隸ス前橋城ノ
南ナリ壽延寺今ハ柿沼村ニアリ

ニアリ 天台宗長樂寺ノ末アリ

振社ハ日神月神飛鳥社五社 山神稻荷雷
天狗神ナリ 神虫神水神

大塔寮社 鴨島辨才天社 同齋宮 本

地堂 千子 関山堂 此長樂ノ法照禪師ニ師トシ
事ル了儒ナルヘシ

昭東大塔
家ノ山アリ
山下ニ社アリ
其ノ後ト云
駒ノ嶽ト云
其後ト云
黒捨ト云

沼尻藥師小沼虚空藏 地藏嶽地藏

堂 牛王堂 坂下二里許在馬 并壽延寺ノ

香火ヲ堂子ル所ナリ 大塔古ハ恭詣影アリニトテ高

アリテ商人ヨリ稅錢ヲ取シ方圓東御入國ノ彼社人ノ濫妄ヲ

二宮神社 二宮村ニテリ源賴朝ノ建立其後北條

氏直カ為ニ毀破シテル牧野右馬丞再造

赤城神ノ同躰ナリ祝家説祭國常立尊大

國魂命 牌篇曰赤 神主六谷田氏

本地堂 十一面 觀音 別當大胡玉藏院真言新義

社地乾隅五輔塔アリ藏王権現ヲ祠ルト云

近戸神社 大胡アリ 樂赤城神大胡氏ノ祠ル處

ナリ以近其戸邊各近戸社 後大胡宮内少輔勝 行末氏直之封移住



江戸牛込ノ時又福子牛込ニ立ッ今ノ牛込ノ赤坂ニサリ
勝行ハ宮内少輔重行ノ子ニシテ大胡太郎重俊ノ代ノハ
裔ナリ後代中牛込ノ改。古市氏カ前橋國土記牧野
今午込氏コ其後ナリ。右馬込ノ建ル所ト云六眼ナリ

小高神社 糸井村ニアリ

三代實録貞觀五年五月九日辛未授上野
国正六位上小高神從五位下

箱田神社 箱田村ニアリ祝氏ノ云木曾義仲
ノ臣今井高梨町田小野澤萩原諸田車淵
氏七人壽永二年信濃国筑摩郡ヨリ此地ニ
来リテ囿田 阿礼三神社ヲ祭ル七氏ノ
孫今ニ當所ノ農氏タリ
神祠ノ前ニ飛泉之源山止數十歩許ヨリ出
沙中ニ涌ク下ニ般石石アリ東南ニ屈曲シテ数百

歩盤連シテ箱裏ノ向カ如シ水其上ヲ流テ三
四條ニ分シ下リ高キ者三四尺低者一二尺乱
絲ノ如ク西練ノ如ク所謂水筍ト云セノナリ甚
可愛

栗生權現 下田澤村ニリ此所ヲ栗生ト云義貞臣
栗生左衛門頼方ヲ祀ル頼方此所ノ人ナリト云

寺院

善勝寺

端氣村ニリ天台宗長樂寺未寺

大治四年聖慶法師ト云モノ醫王部 迦像ヲ

コニ安置ス當時未タ寺院アラズ尺守堂ノ僧

ノニ正嘉二年天台僧覺心堂ニ主タリ會平時

頼方ノ所ニ来リテ談話ノ甚ク相諧ノ便田一

町ヲ寄附ス永享三年僧圓祐再造寺院

德聚山慧雲院自親寺ト号ス從此寺主相
續ス天文中既橋城主長野左衛門尉名ヲ
善勝寺ト改ム永禄五年既橋城代北條高
廣良場山ト名ツク
堂前ニ櫻樹ニ株アリ巨木
ナリ愛ス
齋田三十五石

長興寺 大胡アリ文禄三年曹洞教波之
僧大室ノ所建縮垣平八檀那ナリ
牧野良人
家老ナリ

齋田五十石

養林寺 大胡ノ堀越村ニアリ文禄三年牧野
駿河守法名月性院其蓮社昌公ノ用基浄
土宗大光院ノ末寺ナリ

齋田百石

善雄寺 萩原村ニアリ天台宗
齋田十五石六斗 善雄又作善庵

正圓寺 深澤郷宿廻村ニヤリ天台宗之

ヲ処キ城ト云神梅氏カ障徼ノ趾ナリ

齋田十五石一斗

毘盧光寺 上田澤村ニヤリ此所ヲワクマニト云

真言古議談林ナリ

齋田十一石二斗

善昌寺 新川村ニヤリ天台宗長樂寺ノ末

寺ナリ太平山妙珠院ト云 俗ニ我眞ノ家老丹

ト云明據を慈眼大師ノ住シテ寺ノ関東ニ始テ寺ヲ

齋田十七石 寺僧ノムルハ南田入道此地隱居セリ

建武三年正月十六日京都ノ殿ニ細川卿律師宛禪カ為

祥禪寺 花輪村ニアリ曹洞宗ナリ

齋田 十石五斗

清水寺 神戸村ニアリ曹洞宗ニ由後用五泉寺朱

寺ノ觀音堂アリ

齋田十二石七斗

不動堂 宮田村ニアリ山ニ登ルヲ百歩許岩石

為階松杉凌天ニ巖窟アリ堂共窟裏

アリ石像大餘弘法大師ノ彫刻スル処ニ

白晝ドイハレ燭ヲ集テ入ヘシ

觀音堂 日輪寺村ニアリ大同年中ニ建ツ堂

構尤モ精シ樓門アリテ執金剛神ヲ安ス

珊瑚寺

石井村ニアリ天台宗ナリ

舊ニ銘寺ニ

作ル一州和尚終焉ノ地ナリ

一州和尚事見緑林郡志源寺下

地藏堂

頼朝墳景時墳

石牌文字不見
珊瑚寺ノ境内ナリ

澤入塔

澤入村ノ山中ニアリ天然ノ塔ニシテ人造ノ

為トコロニ非ス

袁中郎西方合論曰此方阿育王舍利塔衆生見者有無大小顔色處所動定光明變異相皆異別今法入塔中人人目眩々毎人所以不別之當是方之奇也

常廣寺 山上村 閉山勅特賜智覺照元

禪師天正戊寅十一 関基本喬院芳林高倉居士

宝物蟒蛇ノ頭骨アリ 長二尺頂廣一尺五寸其状甚ク奇ニ紀文アリ使チマニ家ス

一心修行入為四國豫州土佐山ノサハヒ岳カ峯ト云深山アリ人家ヲ離三歳住居ス木実草実ヲ食露命ヲ饑ル折シモ古本ノ枯枝アリ口ニ穿風ヲ凌折箭挿ト思上巖穴ヨリホリ出シテ見レハ生タル処ヲ見レハ可名様モナシ里ニオロシ不民ニ見レ氏何トモ名ヲ付ルモノナシ然折節日向國ヨリ来地骨ニ飛リテ世ヲ渡ル者是ハ坂地ノナレ頭ナリ深山ハ鳥地白地ト云ハル大地アリ申シ是ハ青地ト云地ノ旁ハ鳥地ハ毒虫アリ白地ハ疵藥之取分此皆蛇ハニホリ同ニモ男女隨キテ養ヒ氣

積唐ヲ退ク藥地ノ父曰痘疹ノ流行時三田男女は三ホシヲ唱シ
テモノカレ文輕ト云テ者リス今愚僧自見ヤ子因縁アルキ者釋
尊ハ八歳龍サテ極ヒ役待者弘法大師大地テリスケ源空ハサ
クテカ池ノ大地ヲタスケ日蓮上人ハ七面大地ヲ七面大明神ト云
レテ愚僧モ其祖ニオモラニアラス今此頭ヲ見出シ以因縁諸人
ニコレヲ見セ其他方ニヨリテ一山ノ古地ヲケツテサテ来世ノ名聞
ヲ残ス者也宣永七年寅正月三日木食屢睡比トアリ外
ナレ傳ル因縁テ貴殿以御此頭納可申所ノ加力頼者也
田中藤左衛門殿 屢睡
田中氏ハ王親町二条大御堂ノ家人ナリ正徳四年七月田中氏ヨリ
常廣寺一藏ル状アリ田中氏所持ノ間
仙回御所 女院御所ニ御覽入レ其外ニ條殿下九條殿
下等ハモ一覽ヤリナレ田中氏ノ状ニ見レ且ツ二条家九條家
ノ家目ヨリ藤左衛門ニテ状アリ前橋ノ長長田寺(末寺)

故城

大胡故城

藤秀卿六代ノ高淵名大夫兼行カ子足利
大夫成行カ長子成家始テ大胡ヲ稍成
家子ナカレテ弟成近ヲ嗣トス成近カ子太郎
隆義降義子貴秀ハ法然上人ノ皈依
念佛ノ行者ノ
語燈禄上人贈実秀 天正
夫妻書アリ

此大胡常陸及高繁一テ相續ニテコト居リ

其後少時由良国敏系カ持トシ城代高田伊勢守置又小田原ノ手

ニ入リテ山上郷右衛門頭將カ持トナリ三夜以元
云土年大

胡常陸及高繁ノ寄進狀アリ又江戸ノ牛込氏ハ大胡

ヨリ移住ス牛込ノ宗參寺ニ墳墓アリ銘云大胡宮内少

輔重行止州大胡城也又云宮内少輔藤行者重行

之男天文十二年甲辰建五雲居山宗參寺天文二十四

乙卯年改大胡氏号牛込コトニ依テモハ重行ノ氏政ノ
命ヲ受テ牛込ニ移住シテ後常陸外猶大胡ノ住ル
ナラン

天正十八年ヨリ牧野右馬丞忠成居

城右馬丞後
改駿河守

其後城ハ前橋ニ隸ス

山上故城ニカハ山上村ニアリ常廣寺ツノ趾ナリ

足利大夫成行カ孫俊綱カ弟五郎高綱始テ

此地ニ處テ山上ト稱ス高綱カ子太郎高光高綱
高光

時光頼朝住フリヨリ子孫相續シテ東上野
四家ノ一ナリ永禄ノ比山上藤七郎氏秀小田
原ノ為ニ攻落セテ浪客トナリ氏秀入道ニテ道
及ト云逸宦諸家
小田原ヨリ番兵ヲ入置テリ天文十四年謙信
番兵ヲ逐拂ヒ大胡氏部左衛門ヲメ居ヲシム
古市明凡土記ニホク大炊頭居為ト蓋ニ秋氏ノ家草
ホク源斎常ノ此城ヲ成ルルニ又山上治部大師云
モノ山城主タリト云又道及尸父足ハハニ

善故城

今膳ニ作ル龍原寺

曹洞ノ前ノ岡アリ

善代ニ三善氏カ所居ナリ

天文ノ比善彌四郎康道金山ノ成繁カ旗下ト

古戦録ニ天文十四年五月謙信東上野傷ノ時
善城ヲ攻落スルニ城主康道カ時ヲ未詳

永禄三年善城主善備中守宗次謙信

命ヲ受テ伊勢碕ノ砦ヲ攻取ル元龜三年
宗次伊勢碕ノ萩田備後守ト相謀テ小伎
ノ澁川相摸守義勝カ小田原參勤ノ隙ヲ
窺ヒテ小伎ヲ襲フ風雨ニ遭フテ戦死ス同
三月十八日澁川横瀬トカナヲ戮セテ善ヲ討
テ怨ヲ報ス善ノ家臣守ルヲ不能シテ齋
藤右近ト云テ幻主春松丸四歳トリテ輔

ケ携ラ厩橋ニ走ル善氏ロニ至テ滅タリ城
成繁カキ入大胡民部左衛門澁川主膳ヲ
入置ク天正七年九月武田勝頼東上州巡
見ノ時素肌ニシテ攻ム是時澁川主膳ハ
玉村五郎兵衛トコ論シテ闘争ニ及リ畧中
ユ一容易ク攻落シ大胡淺見清太夫討
レ城セヒクリロシテ善城素肌攻ト云
古市剛曰
善城左村

東北相傳木戸玄弁之石城也此說未詳按本伊豆守合道元
奇邑宗郡古村合宿舊傳持古之後也其山蓋下有民名次は二謙信名也
内藤家傳

淵故城 村ノ西北隅ニアリ 初ノ城主ヲ詳ニセズ天

文中謙信コレヲ攻落シテ長尾頭長ニ與リ頭

長家臣荒井圖書ヲコレニ居ラシム 古市氏 曰沼田

平ハカ所居ト不審又古戦録謙信女淵城ニ毛呂
宗忠ニ与フト非ナリ新井長尾ノ家臣ナリ

苗ヶ島故城 苗ヶ島ヨリ淡路ヲ傳テ一里半計

赤城山ニ入りテ宿ノ平ト云小シテ平原アリ其東

山ヲ桃井ト云相傳桃井播磨守直常カ城跡

ナリ宿ノ平ヨリ折テ西ニ往ハ湯沢ニ至ル東ニ行ハ

瀑布ニ至ル 桃井播磨守カ城ト云是不審余コレニ山中
往來ノ人ニ向フ此ヨリ東ノ尾崎ハ深沢ニ

ツケリコレ深沢松島カ要害ノ為ニ筑キシモノナルヘン宿
ノ平ニ石塔アリ立田石ニ築アリ文字ナシ是又山中ノ

人ト云シハユレハ古昔領分界ノ為ニ建シモノナリ山中
コノ外ニモコレアリト此說ナモ右スヘンス苗ヶ島ノ西ニ城

跡ナリコレモ深沢氏此名ナリト云ヘリ或説深沢氏桃井氏由諸ナ
リト云エリ

深津故城 深津ノ内妻島ニアリ 赤堀村 四面高キ

三

一 園ニテ中凹丸地其中央七八段ハカリ高き血ハ
アリ古ハソノ園廻ハ沼ナリト云傳フ今田ト丸
城主不詳土俗ハ口碑ニ在昔此城主為寇攻ラレ
池深ニテ抜リ不能ヨツテ毒ヲ池水ニ投ヒテコレテ
滅トスソノ毒ヲ搗シ石臼今西北松林ノ中ニアリ
毒氣今猶遺テ鳥獸モ其臼ノ水ヲ飲ハ
死ス

深沢舊墨 神梅ノ砦ト云今正圓寺ノ在
地ノ跡ノ因テ城ノ正圓寺ト云茲澤氏ノ居
處アリ黒川山中ノ茲澤松島氏ノ奥州ノ安
倍ノ裔ノ安倍宗任天喜五年ノ春既ニ降
参シテ將軍頼義ヲ召シ連テ落セラヒ時
宗任ハ一族從類允テ七百三十人跡ヲ幕ヒテ
上リシニ將軍大勢ハ都ニ憚リナルヘシ供ニ六百ノ

過ハカラス東道ノ音信ニモナシトテ黒川山中ヲ宛
 行セラレテ代々此谷ヲ領知シ来レリ一説ニ宗任降
參、後此山
 中流教セラレ此山中モト源家ニ領地ナキナリトテ後宗
 任斂免ドシテ義家ニ仕上テ近臣トナリ宗任黒川中
 三ツリニ時故園ノ懐ノ情アリテソノ地ヲ與テ松島トシ
 名付リ又名板橋地ヲ當リテ宗任ノ松島ハ此谷ニ
 リテ西ナリト
 ヲレヨリ以来守護不入ノ地ト稱シテ何レ
 旗下ニモ不為桐生大炊明ト至リテ大炊明ノ旗
 頭トテ芥沢能登入道如聖道伴松島式部少輔入道

古栢同尾張守東宮民部少輔高草木對
 馬守荒時式部少輔コレヲ桐生七揆ト云桐生
 滅ヒ入垂山ノ旗下ト云天文八年三月金山ヨリ黒川中
ヲ討ツ同九年六月太田三樂齊知
議ヲ調、新田扇唯芥沢道伴後コレ般ス同十二年又湍沢ノ
芥沢ヲ攻ムト云説アリ又桐生滅ル時中護既、新田通入トモ云
未詳孰是

澤入故城 松島式部少輔ノ城ナリ

一 屋間城故 橋爪修理亮力城趾十リ

草木故城 高草木筑前守城趾十リ

神戶カウト故城 小曾根筑後守力城趾十リ

小中故城 松嶋安路守力城趾十リ

遠ウレ久保ホ舊壘 長尾大膳力古城古市氏ノ説

見立舊壘 見立権太郎コ居後山本山以兵衛

コニ城不同上

一

樽信壘

樽村ト見立村ノ間ニアリ河田新田

古城ナリ 同上

峯舊壘

北條安藝守

謙信ノ家臣
厩橋城代

カ家臣田中

大貳カ居ル処ナリ 同上

不動山故城

八島村ニアリ白井ト利根川ヲ隔テ、

アリ長尾ヲ漸ク討テ持城ナリ永正六年長尾伊

玄越後ノ長尾為景ト心ヲ合セ山内上校ヲ比月ニ

ヨリ同六月上秋憲房大軍ヲ帥テ白井沼田ノ兩

城ヲ攻メ沼田ハ降リ白井ハ陥リス伊玄ハ不動山

ニ保ス白井ニハ大森式部ヲ居ク同七年伊玄白

井ヲ攻取テ飯佐ス元龜三年長尾景憲白

井ヲ破テ信玄ノ
為攻ムル八崎ニ退リ天正元年白井飯

城ヲ天正十八年八崎先破テ白井落城ス崎

或元
崎作

天竺故城長尾カ持ナリ城跡ヲク山ト云平地也

館ノ跡ナリ長尾カ家臣牧弾正或和泉守云

長尾一井齋月卒去ノ後一井齋叛心アリ一井カ子

鳥房丸權四郎景天正十三年小田原ヨリ飯リテ

コレニ察シ鷹野ニ託シテ大室ヲ籠表フテ白弾正

父子并ニ家僕ニ誅ス甲陽軍鑑大室城主長尾意去

真壁舊壘 神谷三河守カ所居ナリ古市氏カ説

上泉村信綱山莊 上泉村ニアリ

上泉武藏守信綱當時好劔術日夜畫心後尤得

其精故公方召到於洛陽師尊賜官從四位下柳

生ハ親受其術傳于今少為祖焉古市氏前指風之記

又風土記上泉城大胡加賀守廣勝居焉後ニ信綱居之此説後先セリ廣勝ハ天正申ノ人ナリ

不接武藏守信綱天文十四年春氏康既橋玉
 馬ノ時詐降リ謙信ノ越山ニ及テ東上州ノ鐵導
 又築輪長野ノ臣上泉伊勢守秀綱ヲ兼輪
 及テ桐生進上桐生又次郎ノ家法壞ルヲ察メ
 信玄仕ハ撃斃シ以テ名アリ後暇ヲ乞フ武者修
 行シ和州柳生又五衛門宗重傳授シ後武藏守
 ト改メ并古戦録ニ依テ見ル信綱秀綱ハ別人ノ風土記
 三人ト云レ代タリ蓋シ又子歟

山上石室 山上村古城旁ニアリ田園ノ中ニ石ノ壘

ラ室ト入口ノ廣サ方六尺許奥ニテ十歩ハカリテ

横廣六七歩長倍二三歩 古市氏風土記

森下故壘 沼田ニ近シ森下三河守カ居ル処ニ

沼田ノ余下ナリ

牛橋 女屋村ニリ赤城山大河原ノ流水ニ跨ル

吾妻街道筋ナリ長二十四大相傳頼朝此橋

ヲ過トモ時牛ヲ橋ニ卧ス依ラズツク

龍ノ皇前橋ノ城ノ西ニリ利根ノ海トリ高岸

此条可則
廣群島

小笠原山 下野界ナリ利根郡ノ山ノ南ニ野州ニテ子山ト云

大笠原山 小笠原山ノ南ニ野界ニテ下野テテ山ト云

大胡實秀傳 里谷丈傳 二十九

上野国ノ御家人大胡小四郎隆義在京ノ時吉水ノ
禪室ニ参シテ上人ノ勸化ニ預リ深ク念仏ヲ信受
シテルカ下国ノ俊徳不審ナル事侍テ上人給仕ノ
弟子洪屋七郎入道道遍カ所尋申シタリ先
ニ道遍上人申入ニ仰テ傳ヘテ三心以下事細
申道シタリ隆義カ子息大胡太郎實秀彼ノ

消息ヲ相傳シ父ノ跡ヲ追テ稱名急リナカリケ
ル念仏ノ安心不審ナル事併テ不屋原ノ蓮性
ヲ使者トシテ上人ニ尋申シメリケレハ真觀房ヲ
執筆トシ書遣サレテ畧實考此消息ヲ恭
敬頂戴シテ一向ニ念仏ス寛元四年往生人時
異香ヲカキ音楽ヲ聞モ多リキ實考ヲ專
室ス深ク此消息ノ教ヲ信受シテ稱名ノ行

急リナリ終ニ奇端ヲアハシ往生ノ素懷ヲ詠
ケルトナシ



四

下

三

上野国志

佐位郡

和名抄曰名橋

有相原形奈波之

岸新

反治佐井

淵名

布知奈

驛家

雀部

佐

倍伊美侶

今按スル淵名今淵名村アリ当郡多ク皆

淵名庄ナリ是古淵名今領スルユヘナリ

桐原村アリ自餘ハ不詳

但桐原村今属山田郡

續日本記神護景雲元年三月乙卯上野國佐治
郡人外從五位上檜前君老刀自賜姓佐位朝臣
同二年六月戊寅以尚膳佐位采女外從五位下
上野佐位朝臣老刀自並為本國國造

按老刀負当郡女子ノ采女選ハシテ官仕ス

ルモノナリ

藤原秀卿五代孫秀卿二常文修鎮守府將

軍頼行弟行則ノ長子足利太郎兼行始テ淵名ノ居テ

淵名大夫ト稱ス此衣南當郡ヲ領ス

村三ト五村租入壹万伍行樹佰陸拾玖石貳

斗伍升

淵名村天文此淵名次郎家色ト云者地ヲ領セシト云人説

伊勢崎トト赤石村ト云横瀬武ノ税ニ弘治ニ海

或天文十由良城繁羽收ヲ午ニ入レ赤石郷神人村ヲ

伊勢ノ神領寄附ニテヨリ伊勢前ト称スト云

太田村 蓮村 武士村 上下 保泉村 今泉村

守堀村 波志江村 此村堡アリ 小堡九十百歩 大堡三百百歩

植木村 上下 水鳥村 百々村 境町 舊ハ宿村ト云

小柴村 元亨比小柴彦次郎成光ト云者アリ天

一文比小柴左衛門尉長光横瀬ノ臣ナリ

五十久村 今伊与久作 茂呂村 中島村

小保方村

西小保方村

田部井村 シムカ井 岩松遠江太郎時兼ノ四男四部井田

即經氏其子四郎太郎恭經恭經ノ子仲恭ヲ

大郎三郎ノ子恭實ハ高時ノ味方トシテ元弘三年九月十

六ハ今陪河原ニ戦死ス

国定村

小絹村 足利義綱景宗孫宗綱霜降藤次郎宗綱孫宗綱景宗

五目牛村赤堀内 今井村 堀下村

赤堀市場村 并赤堀御ナリ赤堀氏ハ足

利又太郎忠綱別名兼行五代孫弟足利一即義綱ヨリ

四代景隆孫太郎教綱始テ赤堀ト称スリ

レヨリハ代ノ裔上野ハ景秀ニテ赤堀ト御

号小保方ヲ領ス

香之林カウヤシ野村 西野村 曲澤村阿ヒノヤ間之谷村

神社

大田神社 延喜式載ス所ナリ下淵名村

ニアリ土人訛リテコバノ宮ト云

寺院

萃薇寺 上植木村ナリ天台宗長樂寺

赤寺ナリ丘林山ト号栄朝禪師ノ建ル所

齊田十三石

天増寺 下植木村ニアリ曹洞宗常會ナリ

関山華藏義曇和尚關差稻垣平右衛門

長茂御野崎城去リニ時建ツモト庵野ナ

リシテ關キテ菩提所トス大陽山ト号ス

齊田四十石 長茂法名天増寺殺快山堂慶居士
慶長十一年卒稻垣氏ノ廟皆在焉

内山天竺伊
光也華嚴
齋同山也

宝珠寺 赤堀郷今井村ニアリ曹洞宗ナリ

此寺依藤太秀郷ノ墳アリ蓋シ赤堀氏

立ル処ナリ 下海下宗ナリ楊山僧和尚ヨリ曹洞宗ナリ
号如意山又小菅氏ノ古墳ナリ

齊田十五石

前橋ノ長呂寺ノ赤寺アリ

大林寺 赤堀郷市場村ニアリ曹洞宗ナリ

齊田十石 瑞福田山 牛久金池ノ末百ナリ此寺旧香林
村ナリ万治中ヨリ移入

大光寺 赤堀郷西久保村アリ天台宗長樂

寺ノ末寺ナリ

齊田拾五石

城趾

赤堀故城 今井村アリ高キ阜ナリ上ニ八幡社

アリ内ニ五輪塔アリ赤堀氏代々ノ居城ナリ

足利俊綱カ二男ニ郎恭綱カ後胤世々コノ地位

ス此鳩淵名ノ在ナリ依テ淵名氏称スレヨリ

行綱景綱教綱藤綱頭邦綱廣綱孫太郎

親綱後下野守ト称一テ相遠ナク御保ヲ領知セシニ文

明ノ比那波刑部少輔宗政カ為ニ掠メ奪テ記

親綱ハ横瀬田繁入道宗暁ニカテ戮ニテナク

宗悦乃予和漢ヲ入レ生那波同心セスヨリ存
堀金山ノ幕下ニ飯ス親細カ玄孫ト野ノ景
秀一テ合戦絶ルナシ景秀永禄中ヨリ至テ家
イヨク衰ヘテ多勢多郡中村ノハシ領シテ長子
越前守時秀ハ金山ニ在城シテ仕リテ後赤坂
ノ墨ハ所當代ニ至リテ小菅根津守同又八三四
世ヲ保障ニ居ス後廢ス小菅根津守 慶長ノ比率
去ス定 殊ニ 墨并 謀アリ
小菅又八節ハ元甲州土神祖甲州市合田時流ト同希下ニ飯シ

伊勢崎墨 モト赤石郷ト号ス始築ノ時ヲ

詳セス上人ノ傳統ニ建保年中三浦公義澄カ

采地ナリ大永ノ比ヨリ元龜三年ニテ赤石左衛

門尉同又次郎ト云モニ代コノ地ニ居ル元龜元年

伊勢崎ト改ム記上人ノ所説赤石氏ノ不詳今テ町
ノ内ニ金藏寺ト云真言宗アリ赤石ノ山

ト云コトヨリ外赤石
村ト云ニ拠ナシ 永禄土年十月上秋謙信余

善備中守秋田備後守伊勢崎ヲ攻取リ

即子款田ヲ城主トス

古歌録 以時那波氏歿シテ
巧ルニコレヨリ 前ハ那波名ノ持リ

款田カ後如何ニタリヤ新田家ノ持トナリテ新田ヨリ
林伊賀守高成ヲ代トス高成死ニテ後横瀬初八節
ノ頼テ天正十二年那波宗後カ子政ハ宗頼宗而リ返
テ居之天正十八年減亡ス或ハ之ヲ天正八年鹿橋ノ
城代長尾玄意ト云モ伊勢前ノ後
居セシテ新田ヨリ攻取リテ代ヲ置ト

關東御入國ノ時稍垣平右衛門長茂ニ賜ル

元和二年從封

今詳ニルニ天正十八年ヨリ慶長六年
ニテ十二年 即代官所慶長六年ニ

稍垣平右衛門長茂ニ賜ル
茂年去ノ後息堪比守

元和六年ヨリ酒井

阿波守寛永中酒井日向守

寛文二壬

子年信州ハ所替ソノ跡ハ前橋ノ領トナル天

和元年ヨリ酒井下野守忠寛同下野守忠孝

同駿河守

茂呂故壘ソノ始ヲ詳ニセス那波家ノ持ナリ

ヲ金山ヨリ取リテ根岸三河ヲ置天正十年廢

境故墨 今長光寺ノ前アリモト 那波ノ持ナ
リ後金山ヨリ小柴左衛門長光ヲ置テ天正後廢
武士ノ故墨コレ金山ヨリ根岸ニ河守ノ持副トス
同時ニ廢ス右ニテ所那波ノワナギノ塚ナリト

云傳ツ地ツキニ在リ在モアリスヘシ 五十子

頭定長尾景春カ徳友ニヨリ五十子ノ彈ツ引松し時岩松
兵庫頭明純武上ノ塚山ニテ待合セント有レハ是ヨリ光ニ傳
アリシト見ハタリ

補

能満寺

上武土村より真言宗新義下野小伎

雞足寺未ナリ

右寺ナリレカ中寺主信榮トミ人小伎ノ後流ソ嗣テ雞足寺未ナリ

世良田ノ縁持寺大根ト大層寺ト出海も4社日ノニ談林ト云昔ニ學問教習ナリト云傳フ

石山觀音堂 十觸村ナリ丘ナリ上大石數十重

當ニテ墨云々如ニ其巨石ノ鼻ニ正觀音ノ像アリ昔

ハ堂モ無クテ此兵樵柴ノ地ナリニカ樵夫馬ノ

病ヲ祈シニ奇特アリラ忽瘡シヨリ丸ヲ馬ノ祈

願ニ亦驗アラスト云フナニ近世殊外參詣アリ

堂宇モ造構ナリ別當、万徳寺ト云真言ノ新

義宗ナリ



